

技術資料

加熱サイクル試験

< 方法 >

熱風循環式恒温槽(他社製品)に試料を入れ、70 加熱5時間、室温での放冷19時間のサイクルを10回施した後取出し、外観異常の有無を調べた後、変色温度測定する。

	外 観	変色温度
TR-40	異常ナシ	異常ナシ
TR-50	〃	〃
TR-60	〃	〃
TR-70	〃	〃

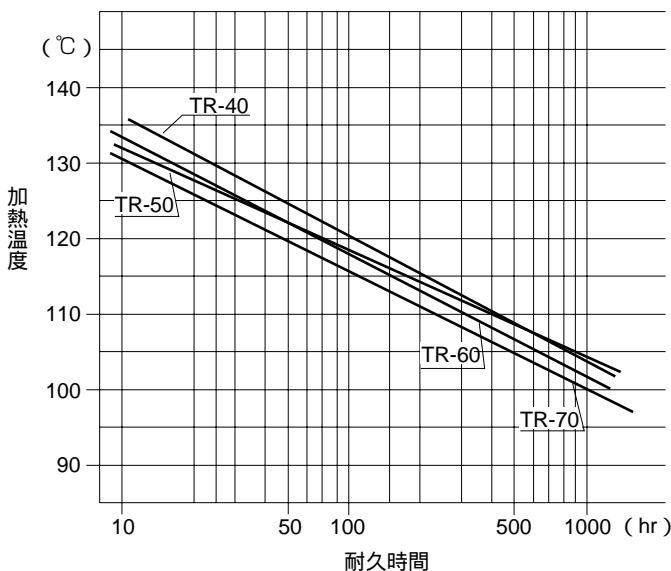
耐水性試験

< 方法 >

試料をピーカーの中の蒸留水に水深10cmに沈め室温で一ヶ月放置後取出し、風乾後、外観異常の有無を調べた後、変色温度を測定する。

	外 観	変色温度
TR-40	異常ナシ	異常ナシ
TR-50	〃	〃
TR-60	〃	〃
TR-70	〃	〃

性能グラフ



耐酸性ガス試験

< 方法 >

亜硫酸ガス、硫化水素ガスをそれぞれデンケータ中に濃度10VOL%となるよう空気と混じ、試料を入れ常温24時間放置後、試料を取出し、外観変色温度を調べる。

< 外観 >

亜硫酸ガス : いずれも異常なし 硫化水素ガス: いずれも異常なし
塩化水素ガス: いずれも異常なし

	変 色 温 度		
	亜硫酸ガス	硫化水素ガス	塩化水素ガス
TR-40	異常ナシ	測定不能	異常ナシ
TR-50	〃	〃	〃
TR-60	〃	〃	0.5°C低下
TR-70	〃	〃	0.5°C低下

耐薬品試験

< 方法 >

塩酸、硫酸、硝酸、カセイソーダ、および食塩それぞれの10WT%溶液を調整し、広口試験ビンに入れ試料を浸漬し1・3・7日間放置後試料と取出し、外観変色温度を調べる。

< 外観の変化 >

- 苛性ソーダ溶液に対しては浸漬3日間でいずれも周囲がわずかに変質し7日間で約半分が変質する。
- 塩酸溶液に対しては浸漬7日間でいずれも変色は認められない。
- 硫酸溶液に対しては浸漬7日間でいずれも変色は認められない。
- 硝酸溶液に対しては浸漬7日間でいずれも周囲の部分がわずかに変質する。
- 食塩溶液に対しては浸漬7日間でいずれも変色は認められない。

薬品名	浸漬時間	変 色 温 度			
		TR-40	TR-50	TR-60	TR-70
苛性ソーダ 10%溶液	DAY	TR-40	TR-50	TR-60	TR-70
	1	異常ナシ	異常ナシ	異常ナシ	異常ナシ
	3	〃	〃	〃	〃
塩 酸 10%溶液	1	異常ナシ	異常ナシ	異常ナシ	異常ナシ
	3	〃	〃	〃	〃
	7	〃	〃	〃	〃
硫 酸 10%溶液	1	異常ナシ	異常ナシ	異常ナシ	異常ナシ
	3	〃	〃	〃	〃
	7	〃	〃	〃	〃
硝 酸 10%溶液	1	異常ナシ	異常ナシ	異常ナシ	異常ナシ
	3	〃	〃	〃	〃
	7	〃	〃	〃	0.5°C低下
食 塩 10%溶液	1	異常ナシ	異常ナシ	異常ナシ	異常ナシ
	3	〃	〃	〃	〃
	7	〃	〃	0.5°C低下	0.5°C低下